

週間展望 (7/4～7/10)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

目次 (2022/7/4号)

■ 目次	・・・ P 2
■ 週間予定：米FOMC議事録・雇用統計が注目	・・・ P 3
■ 前週Review：対ロシア追加制裁も、欧州のダメージ大きい	・・・ P 4
■ ドル円：米10年債利回りは頭打ち	・・・ P 5
■ 金：200日移動平均線を中心とした保合い放れ待ち	・・・ P 6
■ 白金：心理的節目800ドル割れは、底値圏	・・・ P 7
■ ゴム：逆ザヤに売りなし	・・・ P 8
■ 穀物：大豆とコーンで値動きに差が出る	・・・ P 9
■ 原油：100～110ドル水準を維持できるか否かが焦点	・・・ P 10
□ 騰落率（年間・月間・週間）	・・・ P 11
□ 日銀国債買い入れ額・アトランタ連銀GDPナウ	・・・ P 11
□ ETF（金・白金）・EIA原油在庫	・・・ P 12
□ USDA生育進捗率・USDA作柄	・・・ P 13
□ 週間輸出成約高・期末在庫率	・・・ P 13
□ CFTC建玉明細- （ドル円・ユーロドル・NY金・NY白金） （NY原油・NYガソリン・シカゴ大豆・シカゴコーン）	・・・ P 14～15

C X週間展望（7月4日～）

【週間スケジュール(7月4日～7月10日)】

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
					1 日 日銀短観 中 財新製造業PMI 米 製造業PMI 米 ISM製造業景気指数	2
3 米 休場（独立記念日） ユ ユーロ圏生産者物価指数（PPI）	4 中 財新サービスPMI 米 耐久財受注	5 米 サービス業PMI 米 総合PMI 米 ISM非製造業景気指数	6 米 FOMC議事要旨 米 ADP雇用者数 米 貿易収支	7 日 国際収支－経常収支 日 国際収支－貿易収支 米 雇用統計	8 中 生産者物価指数（PPI） 中 消費者物価指数（CPI）	9
10 日 参院選挙	11 日 機械受注	12 日 国内企業物価 独 ZEW景況感指数 イエレン米財務長官来日（～13日）	13 中 貿易収支 英 月次GDP 独 消費者物価指数（CPI・HICP） 英 鉱工業生産 米 消費者物価指数（CPI） バイデン大統領中東歴訪（～16日）	14 日 設備稼働率 日 鉱工業生産 米 生産者物価指数（PPI） 満月	15 中 鉱工業生産 中 実質GDP 米 小売売上高 米 小売売上高 米 NY連銀製造業景気指数 米 鉱工業生産 米 ミシガン大学消費者信頼感指数速報値 バイデン大統領サウジ訪問（～16日）	16
17	18 米 対米証券投資 米 住宅着工件数 米 建設許可件数	19 英 消費者物価指数（CPI） 米 中古住宅販売件数 日 日銀金融政策決定会合（～21日）	20 日 日銀政策金利 ユ ECB政策金利 米 フィラデルフィア連銀景況指数	21 日 全国消費者物価指数 米 製造業PMI 米 サービス業PMI 米 総合PMI	22	23
24 独 Ifo景況感指数	25 米 S&Pケースシャー住宅価格 米 CB消費者信頼感指数 米 新築住宅販売件数 米 FOMC（～27日）	26 米 卸売り在庫 米 耐久財受注 米 中古住宅販売成約数 米 FRB政策金利	27 ユ ユーロ圏景況感指数 米 実質GDP	28 ユ ユーロ圏GDP 米 雇用コスト指数 米 PCEデフレーター 米 ミシガン大学消費者信頼感指数確報値 新月	29	30
31 中 製造業PMI						

今週の注目は、雇用統計。今回の予想はNFPが+25万人。失業率が3.6%。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

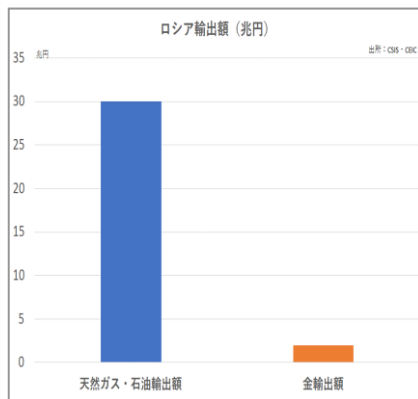
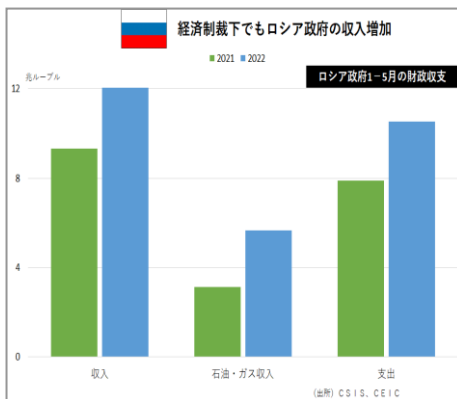
前週レビュー・トピックス

～対ロシア追加制裁も、欧州のダメージ大きい～

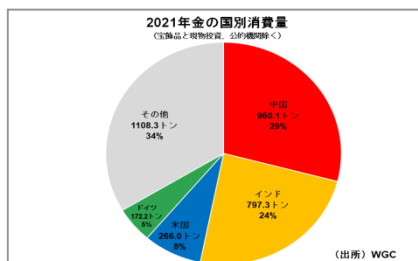
調査課

菊川 弘之

【ロシア産金禁輸の
影響は限定的】



G7サミットでは、英米日とカナダがロシア産の金の新規輸入を禁止すると発表した。ジョンソン英首相は声明で、禁輸について「ロシアのオリガルヒ(新興財閥)に直接打撃をもたらし、プーチン軍の心臓部を攻撃する措置だ」と述べたが、オリガルヒは、プーチン政権側についているかもしれないが政治権力を持っていない。



需給からは**金消費2大国(年間金生産の約49%を購入)**の中国とインドは、**親ロシア国であり、欧米がロシア産の金輸入を禁止したとしても、効果は限定的だ。**

ロシアの年間金生産量は330トン。中国とインド2ヶ国の年間国内需要は2021年には1757トン。**この2ヶ国だけで、ロシア産金を十分に吸収**できてしまう。ロシアの天然ガス・石油輸出額は約30兆円であるのに対し、金は約2兆円程度。ロシアはウクライナ侵攻から100日間で、化石燃料輸出に伴う収入は約13兆円に上ると推計されている(上右図)。金の禁輸は天然ガス禁輸に踏み切れない欧州の言い訳程度のものだ。

中国は世界最大の金生産国(11.6%)だが、国内需要を満たすために不足分を輸入している状況だ。経済制裁はロシア中央銀行にまで及び、ロシア中銀の保有金売却の道が塞がれたとの声もあるが、これも中国人民銀行が買い受ける可能性。中国は、通貨戦略として金の保有量を増加させており、ロシアと共に「金資源本位制」を探る動きも見せている。6月29日のロイター報道で、「インドとロシアが石炭などを取引するときに、人民元を使っていた」という事実も分かっている。

また、**金地金は精製業者(リファイナー)で溶解されれば生産国の国籍は消える。**スイス税関が21日に発表した統計で、同国が5月、ロシアから金を輸入したことが分かっている。

インドの輸入関税
引き上げも弱気視
されない

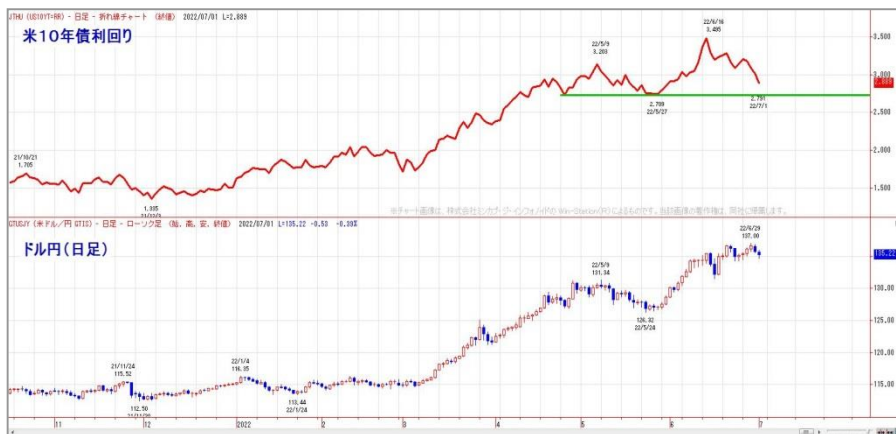
なお、インドが金の輸入関税率を7.5%から12.5%へ引き上げを決定したが、過去、同様のケースでは、**統計上はインドの金輸入は減少するものの、減少分は密輸が増加するだけ**で、インドの金需要が大きく落ち込むことはない。ヘッドラインで弱材料視されても、弱気視される時間は短いだろう。

ドル円 (YEN)

～米10年債利回りは頭打ち～

調査課

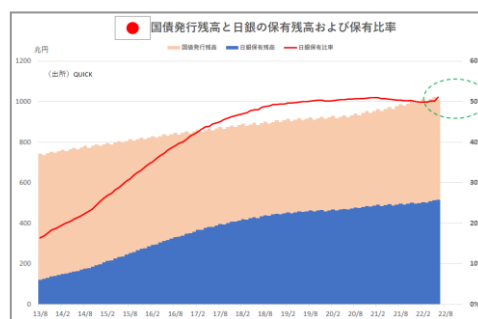
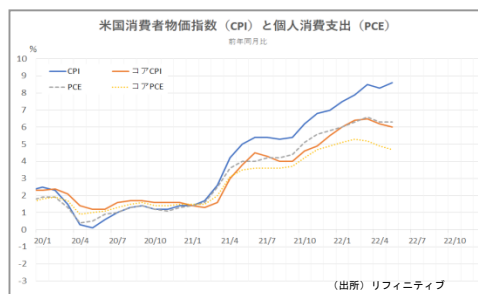
菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

パウエル議長はECB金融シンポジウムで「米労働市場は非常に強く、金融引き締めめに耐えられる」。「最大の間違いは物価安定の回復に失敗することだ」と話したものの、米金利は頭打ち。

米連邦準備理事会(FRB)が物価指標として重視する5月の米個人消費支出(PCE)デフレ率は前年同月比6.3%上昇と事前予想の6.4%上昇を下回った。(右図上段)。予想以下の米個人消費支出(PCE)デフレ率や、米住宅市場を中心に利上げの悪影響が顕在化しつつある中、米金利の調整に追随する格好で、ドル円も調整入りとなっている。**米10年債利回りが、5月末の安値水準を維持できるか否かが焦点**(上チャート:緑線)。



国債発行残高の50%超を日銀が保有

日銀はイールドカーブコントロール(YCC)を通じ、日本国債の発行残高の5割を超える保有となっており(P4:下段図)、黒田総裁の任期(2023年4月)までは、政策変更なしとの思惑が強い。日本と欧米との金融政策の差が材料視されやすい地合いが続いており、130円水準への押し目は買われやすい。**7月12-13日はイエレン財務長官が来日**する。発言次第では上下いずれにも、東京時間帯に動意付く可能性もある。

今週は独立記念日明け後に、雇用統計などが控える週だが、過去のドル円を振り返ると**7月は変動の小さくなる月**でもある。既に、大きく動いた2008年の年間レンジ幅以上の高値を達成しており、8月のジャクソンホールに向けて様子見ムードが高まる可能性も。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

金 (GOLD)

～200日移動平均線を中心とした保合い放れ待ち～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

NY金は、終値ベースで1800ドルの攻防戦

NY金(8月限)は、200日移動平均線±50ドルレンジを、ザラバで割り込んだ。50日間安値更新で、トレンドフォロー型指標は、軒並み陰転となった。独立記念日前の薄商いで値段が飛びやすかった中、インドの金の輸入関税率を7.5%から12.5%へ引き上げの報もあり、支持線割れからストップロス巻き込みでの下落となったが、週末のNY市場では、安値から切り返し、1800ドルを維持している。



ドル円も調整含みとなる中、**NY金が終値ベースで1800ドル割れとなると、円建て金の調整も、もう一段進む可能性には注意**。終値ベースで、6/17安値(右下チャート緑点線)を割り込むと、テクニカル悪化が意識される。ただし、5/17安値(7405円)を割り込まない限り、中長期の上昇トレンドは崩れない。

7月前半の薄商いの中、テクニカル的に売られた安値を、(短期売買以外では)新規で売り込まないようにしたい。7月FOMCでは大幅利上げが予想されているものの、過去の利上げ局面下での金相場と同様、「知ったら終い」となる可能性も。既に米金利の頭打ち感も出始めている。「金・資源本位制」に向けて、ロシア・中国は着々と足場を固めており、**突っ込んだ安値を丹金に買い拾う戦略**を考えたい。

G7サミットでは、英米日とカナダがロシア産の金の新規輸入を禁止すると発表した。金消費2大国(年間金生産の約49%を購入)の中国とインドは、親ロシア国であり、ロシア産の金輸入禁止の効果は限定的だ。この2ヶ国だけで、ロシア産金を十分に吸収できてしまう。

経済制裁はロシア中央銀行にまで及び、ロシア中銀の保有金売却の道が塞がれたとの声もあるが、これも中国人民銀行が買い受ける可能性。中国は、通貨戦略として金の保有量を増加させている。なお、金地金は精製業者（リファイナー）で溶解されれば生産国の国籍は消える。スイス税関が21日に発表した統計で、同国が5月、ロシアから金を輸入したことが分かっている。

白金(Platinum)

～心理的節目800ドル割れは、底値圏～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

「白金一金」の鞘は、「**金買い・白金売り**」の状態が継続している。

「利上げ+QT」のダブルパンチに株価が大きく崩れていることが背景。米FRBだけでなく、欧州中央銀行(ECB)も、6月理事会で、7月から利上げを開始する意向を表明しているが、欧米の経済指標の悪化を受けて景気減速懸念・触媒用需要の減少が材料視されている。



週末のNY白金は、支持線だった900ドルを維持できなかった。同水準を早々に回復できないと、800ドル水準を試す流れが想定される。NY金が1800ドルを維持できなかった場合、白金も追随する可能性は高まる。

ただし、過去、**NY白金の800ドル割れ水準は、底値圏**として買い拾われており、同水準への下落があった場合は、結果として中期的な買い場を提供することになると見る。CFTC建玉明細で大口投機玉が売り越しとなったが、過去の売り越し局面は中期的な買い場を提供している。

南ア電力問題や
労働者ストに注意

南アフリカの国営電力会社エスコムは6月24日、賃金交渉の行き詰まりを受けた労働者の抗議行動により、**電力供給の削減を拡大**すると発表。電力供給の削減が鉱山会社の操業に影響してくると、値位置が低いこともあり、買い材料視されやすい。

今夏の鉱山会社の賃金交渉の行方も注意。鉱山ストライキとなれば供給不安が支援要因になる可能性も出てくる。大手労組である**南ア全国鉱山労働者組合(NUM)**と**南ア鉱山建設労働組合(AMCU)**の動向に注意。

7月のNY白金の月間騰落率は、買い優勢な時間帯(32戦19勝13敗)。

欧米のマクロ経済指標には弱気の内容が増えており、9月以降の利上げペースの鈍化が意識されてくると、株価との相関の高い白金は、再評価されてくるかもしれない。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

ゴム (RSS 3号)

～逆ザヤに売りなし～

調査課

菊川 弘之



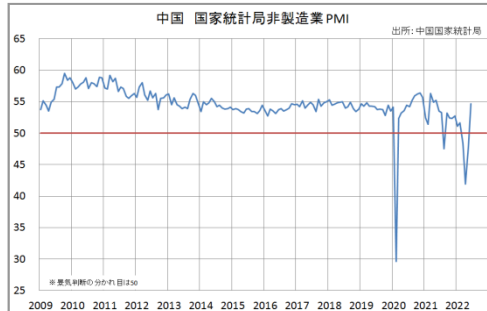
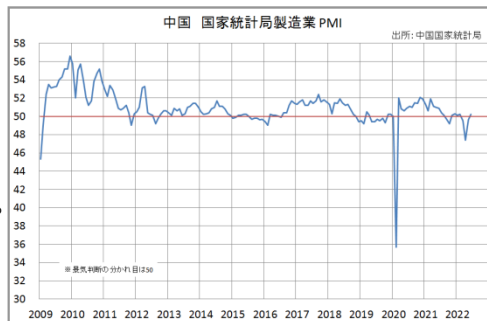
【今週見通し・戦略】

ゴム独自材料に乏しい中、先週前半は、米金利低下・株高に連動する場面もあったが、週後半は戻りを売られた。

ドル円が137円台を付けた後、調整安を辿っていることも一因となった。

上海ゴムは、2021年10月高値を起点とした下降チャネル継続も、当局によるインフラ投資拡大期待や、6月の製造業PMIが50.2と、前月(49.6)から上昇し、4ヶ月ぶりに景況感の分かれ目となる50を上回った事などから陽線引けとなっている。

また、同時に発表された非製造業PMIは54.7と前月(47.8)から大幅に上昇し、13ヶ月ぶりの高水準となった。上海のロックダウン(都市封鎖)が解除されたこと背景。



ただし、中国の李克強首相は、「ある程度回復したが、経済基盤は堅固ではない」、中国人民銀行(中央銀行)の易綱総裁も、「中国経済は下向きの圧力にさらされている」と述べており、本格的な回復には、もうしばらく時間が掛かる可能性。

JPXゴム(RSS3号)中心限月はレンジ内で放れを待つ展開。逆輪化が進行しており、当面は新規の入着が見込めないことから、逆張り下限では押し目買いが有利。逆ザヤに売りなしの展開。

全国生ゴム営業倉庫在庫は、6月20日時点9,908トン(前旬比529トン減)。

6月中旬の入出庫は入庫373トン、出庫902トン。

中国PMIは改善

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

穀物(大豆・コーン)

～大豆とコーンで値動きに差が出る～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

米農務省(USDA)は今年の米国産大豆の作付け面積を3月末に発表した作付意向面積の9095万5000エーカー、予想平均の8915万エーカーを下回る8832万5000エーカーと発表。

6月のUSDA需給報告で9100万エーカーが作付面積として想定されていたため、米国の22/23年度の生産量予測が下方修正されると同時に、期末在庫率予測が引き下げられる可能性。

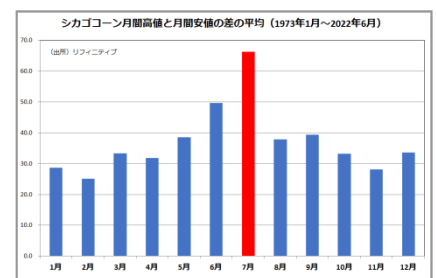
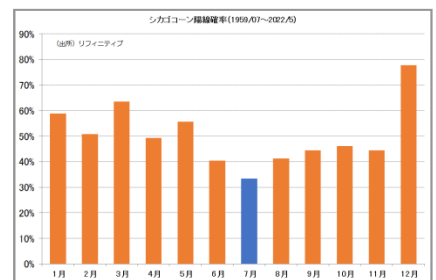
一方、米国産コーンの作付け面積は8992万1000エーカーとなり、3月末に発表された作付意向面積の8949万エーカー、事前予想の平均8986万1000エーカーを上回った。12日の需給報告で22/23年度の米国産コーン生産見通しが6月予想の144億6000万Buから上方修正となる可能性は大きい。6月1日時点の全米四半期在庫は43.46億Buとなり、前年同期の41.11億Bu、事前予想平均43.30億Buを上回った。期末在庫率は10%台を回復する可能性も出てきた。

大豆の作柄悪化
リスクは残る

天候相場の天王山と言われる独立記念日を無難に通過するようだと、**コーンに関しては、今年の豊作を織り込むような動きになる可能性があるのに対して、生育が1ヶ月遅れの大豆は、天候リスクが残ったままで、調整は限定的となる可能性も。**

コーンの7月の陽線確率は低いが、月間の変動率は最も高い。(右図上下)

コーンと相関の高い小麦相場も崩れている。ウクライナ国防省は、ロシア軍が蛇島から撤退し「誠意を見せた」と表明。ウクライナから農産物を輸出するための人道回廊設定に向けた国連の取り組みをロシアが妨げていないことを示していると述べた。



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

原油(OIL)

～100～110ドル水準を維持できるか否かが焦点～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

パウエル議長は6月29日、欧州中央銀行(ECB)主催のシンポジウムで「最大の間違いは物価安定の回復に失敗することだ」と積極的な利上げを続ける姿勢を示した。インフレを抑えるため「大幅な利上げ+QT」が続くとの見方が嫌気され、主要な米株価指数の戻りは一巡し、再び売りが強まりつつある。6月のシカゴ購買部協会景気指数は56.0まで低下し、2020年8月以来の低水準となった。ニューヨークやフィラデルフィア、ダラスなど米地区連銀が発表する製造業景気指数はマイナス圏へ低下しており、景気後退を示唆している。

原油も株安に伴う需要減少懸念から6月高値を起点に調整入りしている。

石油製品需要が3週連続で日量2000万バレル割れと、需要が低迷している。米ドライブシーズン入りしているが、ガソリン需要は4週間移動平均で日量893万バレルと伸び悩んでいる。**米原油生産量は日量1210万バレルまで回復し、コロナショック後の最高水準を更新**している。

一方、戦略石油備蓄(SPR)を含む原油在庫は9億1343万4000バレルまで減少し、2004年以来の低水準を更新。過去最大のSPR放出で民間在庫の減少は食い止められているが、**米国全体の原油在庫は取り崩し**が続いている。

主要7カ国首脳会議(G7サミット)で、ロシアのエネルギー制裁強化を目的に同国産石油の価格に上限を設ける案で合意した。ただし、ロシアが輸出する石油の価格に上限を設定しようとしているが、現時点では構想にとどまり、実効性のある枠組みが出来上がるかは不透明。上限設定の時期についてもめどが立っていない。

OPECプラスは6月2日の閣僚会合で合意した増産目標を維持する。7、8月の増産目標は日量64万8000バレルで、9月以降の生産枠についての協議は先送りした。8月でコロナショック後に始まった過去最大規模の協調減産の巻き戻しが完了するが、**増産の目標枠を達成できない状態**が続いている。リビア国営石油会社(NOC)が6月30日、政情不安で国内の複数の施設からの積み出しの停止を認める**不可抗力条項を発動**。

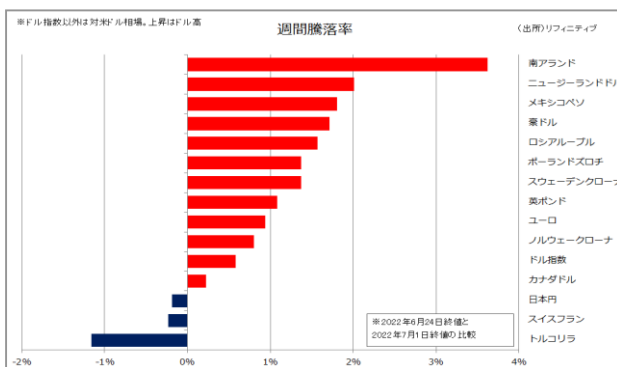
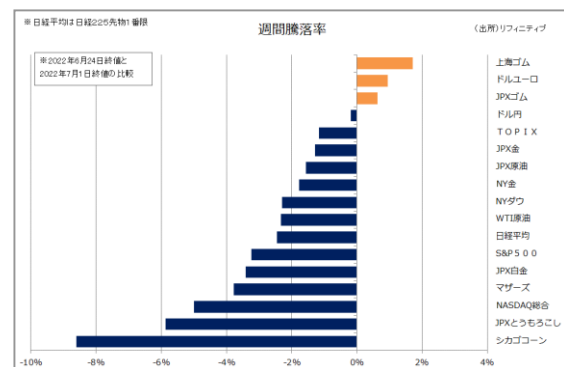
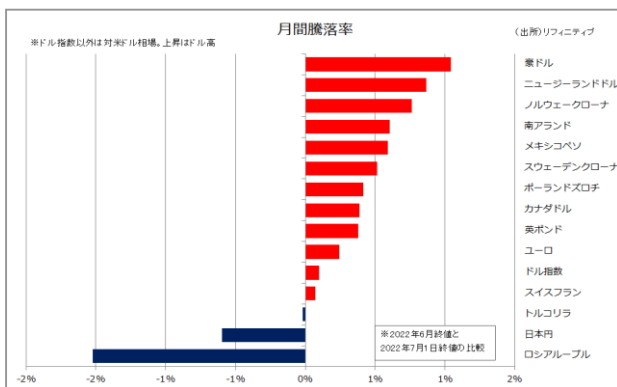
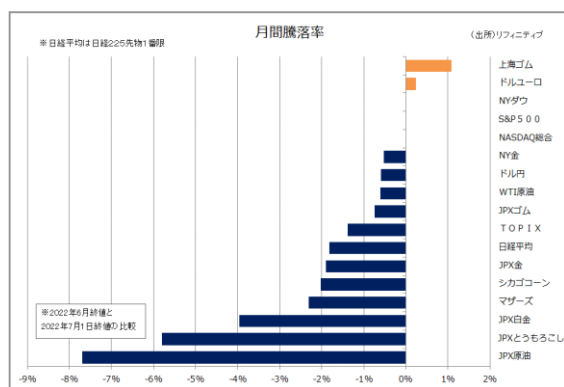
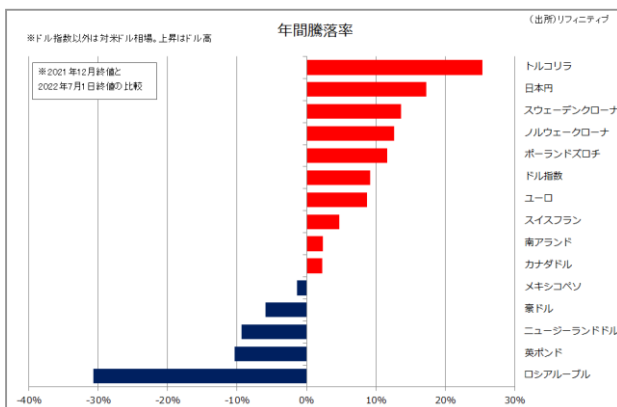
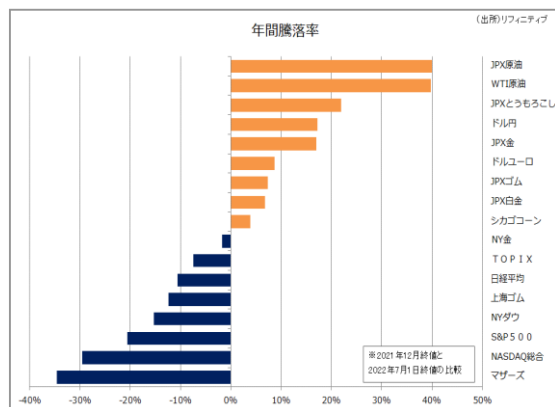
価格帯別出来高の厚い**100～110ドル水準を維持できるか否かが焦点**。(上段チャート)。7月のNY原油の月間騰落率は、買い優勢な時間帯(32戦20勝10敗)。

株価暴落がなければ高値圏で材料待ちか？

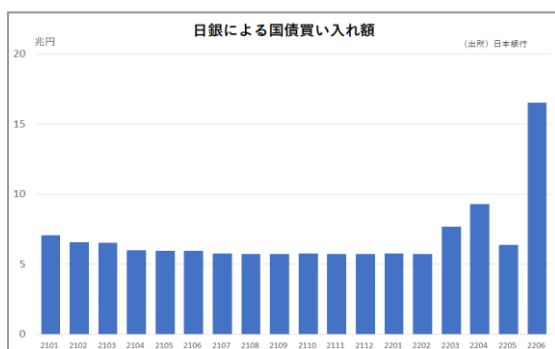
100ドルが地相場

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

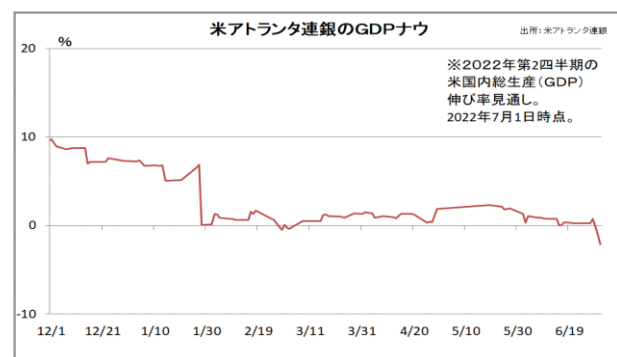
【騰落率(年間・月間・週間)】



【国債買入れ額(日銀)】



【米アトランタ連銀GDPナウ】

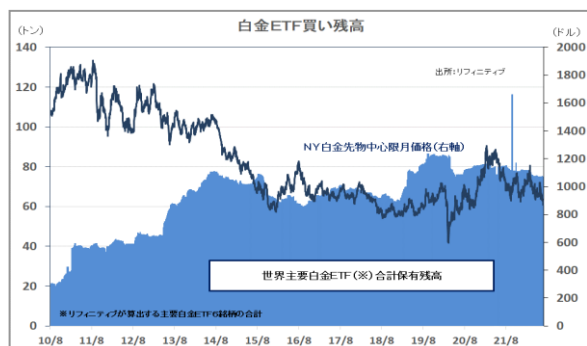


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金・白金ETF】

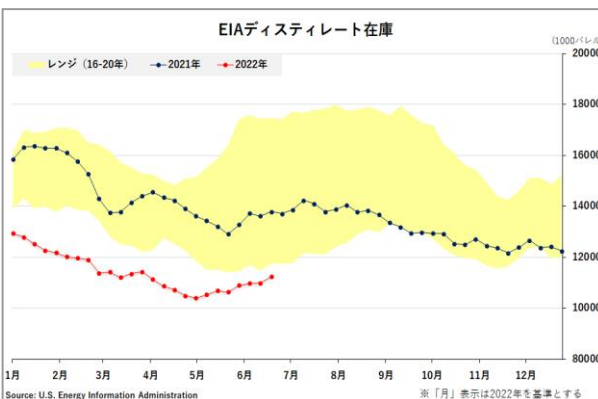
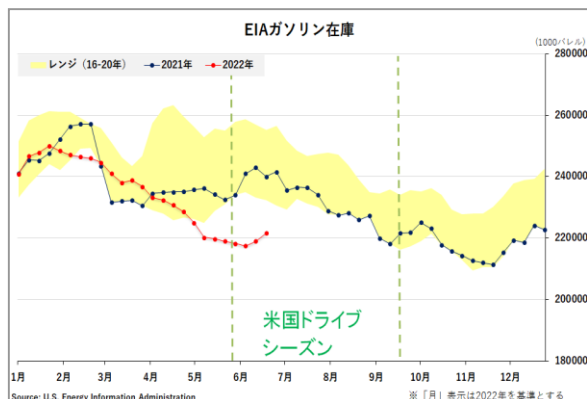
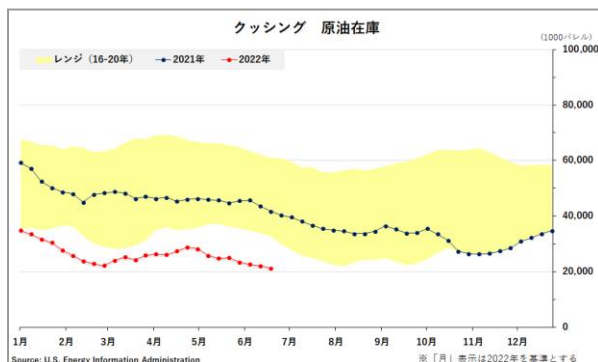
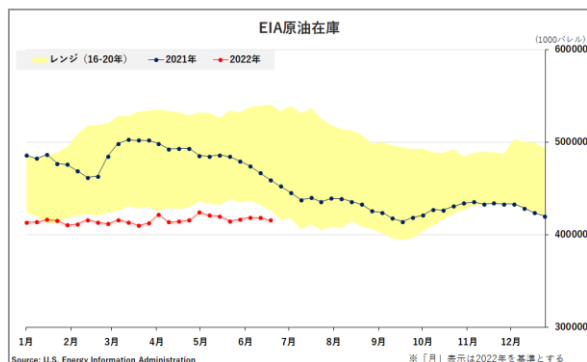


日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/7/1	1041.90	-8.41
2022/6/30	1050.31	-2.32
2022/6/29	1052.63	-3.77
2022/6/28	1056.40	±0
2022/6/27	1056.40	-4.64
2022/6/24	1061.04	-2.03
2022/6/23	1063.07	-8.70



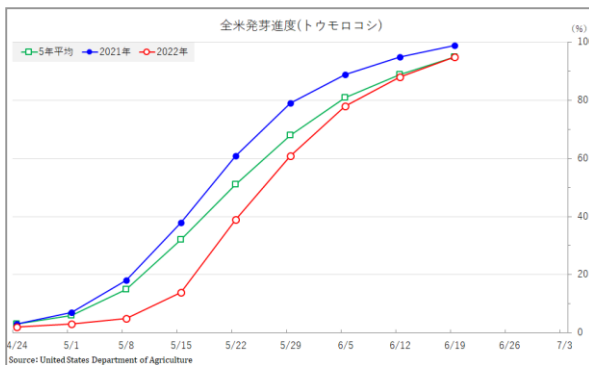
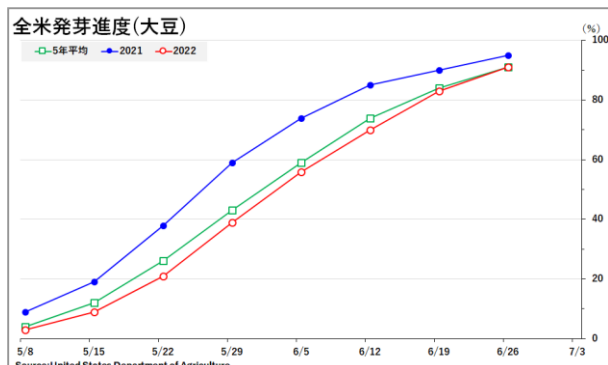
日付	白金保有高(キログラム)	前営業日比
2022/7/1	74,913.18	-61.24
2022/6/30	74,974.43	-0.16
2022/6/29	74,974.58	-0.03
2022/6/28	74,974.61	-0.12
2022/6/27	74,974.74	-45.41
2022/6/24	75,020.15	±0
2022/6/23	75,020.15	-0.16

【EIA在庫】

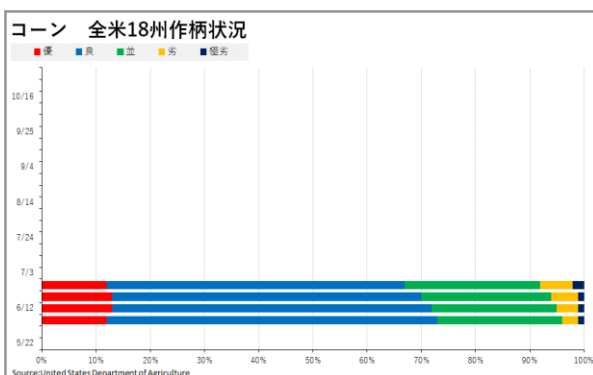
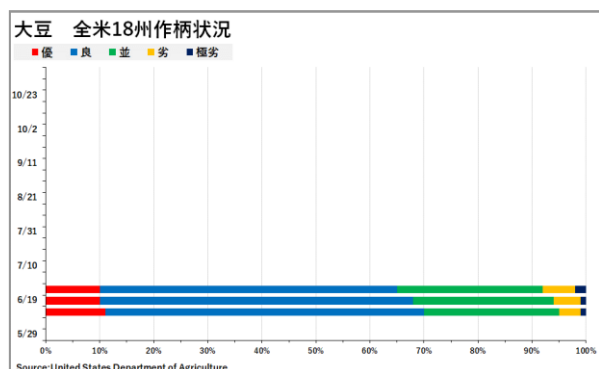


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

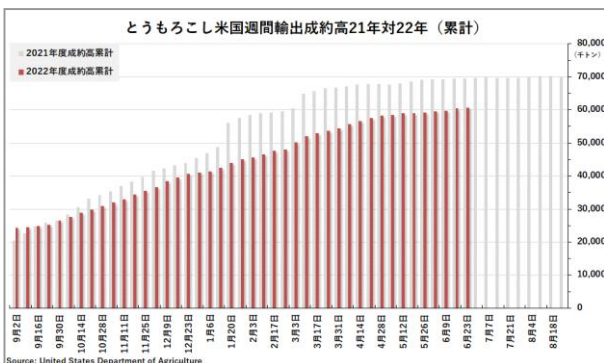
【USDA生育進捗(大豆・コーン)】



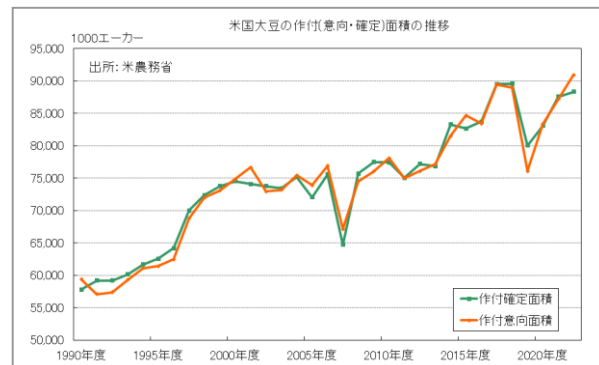
【USDA作柄(大豆・コーン)】



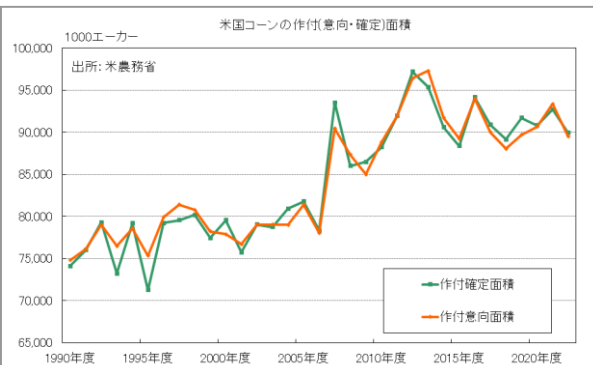
【週間輸出成約高(大豆・コーン)】



【作付け面積(米国産大豆)】

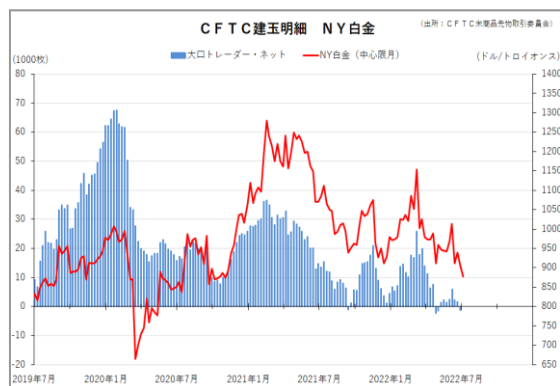
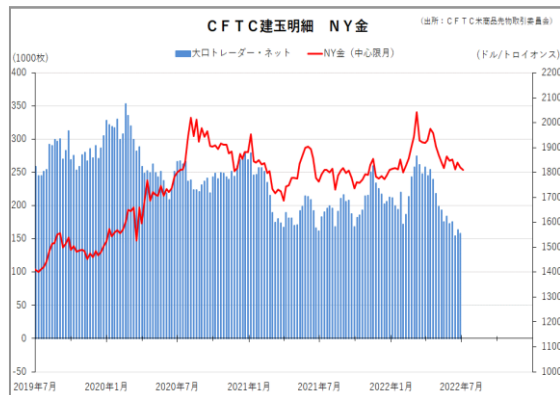
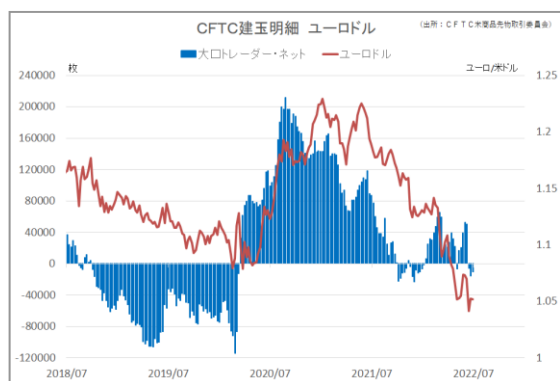
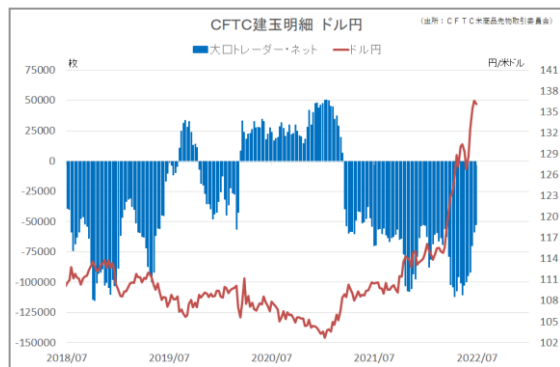


【作付け面積(米国産コーン)】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【CFTC建玉明細】



ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/31	15,201	109,640	-94,439	128.68
2022/6/7	18,466	110,112	-91,646	132.58
2022/6/14	32,441	102,196	-69,755	135.47
2022/6/21	35,864	94,318	-58,454	136.61
2022/6/28	36,462	89,032	-52,570	136.12
前週比	598	-5,286	5,884	-0.49

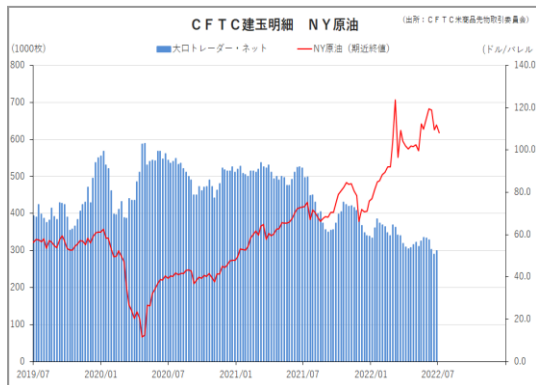
ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/31	236,553	184,281	52,272	1.0733
2022/6/7	230,248	179,705	50,543	1.0699
2022/6/14	206,986	213,004	-6,018	1.0414
2022/6/21	195,554	211,159	-15,605	1.0525
2022/6/28	189,414	200,010	-10,596	1.0518
前週比	-6,140	-11,149	5,009	-0.0007

NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/31	269,459	96,870	172,589	1848.4
2022/6/7	270,356	95,088	175,268	1852.1
2022/6/14	266,596	111,998	154,598	1813.5
2022/6/21	268,119	104,832	163,287	1838.8
2022/6/28	268,712	111,019	157,693	1821.2
前週比	593	6,187	-5,594	-17.6

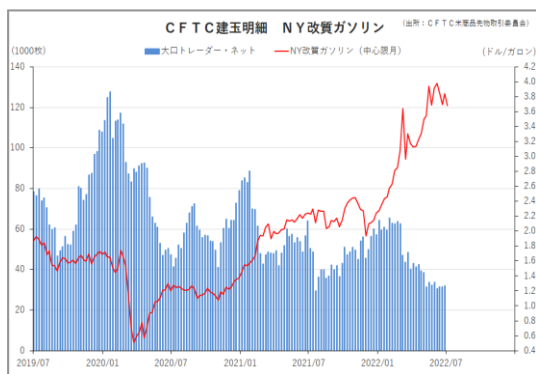
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/31	27,226	24,863	2,363	968.3
2022/6/7	27,004	21,071	5,933	1012.9
2022/6/14	25,085	22,871	2,214	910.7
2022/6/21	25,676	24,185	1,491	939.5
2022/6/28	28,451	29,757	-1,306	905.6
前週比	2,775	5,572	-2,797	-33.9

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

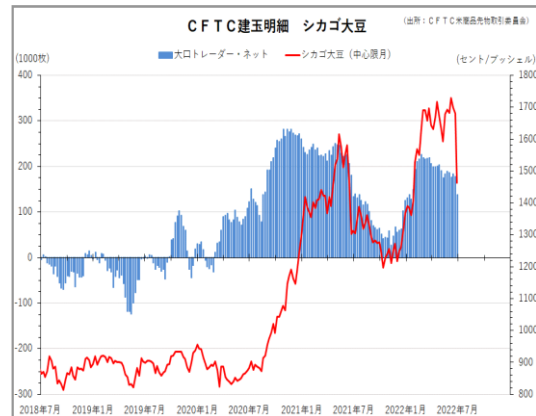
【CFTC建玉明細】



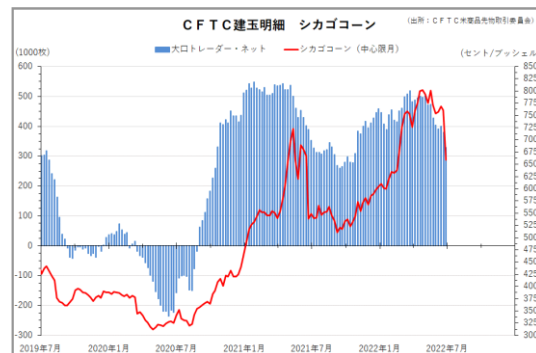
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/31	421,683	88,707	332,976	114.67
2022/6/7	423,882	95,626	328,256	119.41
2022/6/14	409,427	106,481	302,946	118.93
2022/6/21	388,496	98,994	289,502	109.52
2022/6/28	396,046	96,354	299,692	111.76
前週比	7,550	-2,640	10,190	2.24



NY改質ガソリン				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/31	76,089	42,399	33,690	3.9162
2022/6/7	75,841	45,353	30,488	3.9788
2022/6/14	76,744	45,288	31,456	3.8419
2022/6/21	75,835	44,428	31,407	3.6953
2022/6/28	76,657	44,558	32,099	3.8442
前週比	822	130	692	0.1489



シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/31	237,836	51,758	186,078	1683.25
2022/6/7	229,895	53,251	176,644	1728.25
2022/6/14	229,930	47,263	182,667	1698.50
2022/6/21	226,191	47,812	178,379	1681.00
2022/6/28	191,380	54,187	137,193	1462.50
前週比	-34,811	6,375	-41,186	-218.50



シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/31	551,849	147,649	404,200	753.50
2022/6/7	520,783	129,519	391,264	757.00
2022/6/14	519,685	119,910	399,775	768.25
2022/6/21	504,174	124,005	380,169	760.75
2022/6/28	433,710	105,608	328,102	659.25
前週比	-70,464	-18,397	-52,067	-101.50

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

当社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

＜商号等＞ 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）
関東財務局長（金商）第131号 金融商品取引業者 商品先物取引業者
＜加入協会＞ 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般財団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、当社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。